

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通

2004

冬

12月1日発行(季刊)



県立東山魁夷せとうち美術館来春開館!

11月1日。美術館として正式にスタートの同館は前の県立文化会館館長菅原良弘氏を新館長として開館のための準備に入った。当日東京にすみ婦人を訪ねご報告された。

鼎談 「桃山の茶陶」 樂焼茶碗と和物茶碗 その三
特別寄稿 県立東山魁夷せとうち美術館開館準備始まる
好評連載 Oh!茶Galleri / 喫茶居
十一月から二月までの茶華道・イベント情報を掲載

鼎談 「桃山の茶陶」その三

樂焼茶碗と和物茶碗

武者小路千家 家元後嗣 千宗屋

樂家第十五代当主 樂吉左衛門

谷松屋戸田商店 社長 戸田博

平成十五年十月香川県歴史博物館地下講堂に於いて、戸田博氏をコーディネーターに迎え、実現致しました茶道界注目の三氏による夢の鼎談を誌上に再現致しました。今回はその三回目の要約です。



長次郎『ムキ栗』

の先、あるいは認識そのものを拒絶する強さといいますか…。「日本文化は言葉では捉えることが出来ない」と言葉で捉える努力もないで、知った様な事を言うのは無い分と次元の低いことです。だから、無一物なんですね。

これ『ムキ栗』という茶碗です。官休庵さんと大変縁のあるお茶碗で、これは、四方に

してあるんです。高台は丸くて、腰が丸くて、胴のところと口のところが四角形になつて。これはね、さつき言つた作意という言葉があります。作者の意識で変形する心。作意。まさに作意的な物なんです。

樂茶碗は、ろくろを使いませんけれども、手なりで作つたら、丸くなるんだけども、これはわざわざ、あるいは、わざと四角くしてあるんです。つまり作意のあり方を、ここでは感じなけりやあしようがないんです。織部は感じなけりやあしようがないんです。織部の作意のあり方と、このムキ栗を四角にした変形の心の有り様を尋ねてみれば、明らかに違つことが分かると思ひます。やつぱりこれは、無一物と同じ静けさを持つてゐる。作意とか無作為とか、茶人はすいぶん手前勝手に使用してきた歴史があつて、それが茶の湯の美を弱いものにしてきたと思ひます。

千 ここまで思い切つた形で、これだけ深く静か…なんかでも、さつき『大黒』と『獅子瓦』の対比を見せられたんすけれども、これで何か全てがつながつてくるような印象は、僕、今、パツと見て受けましたけれども。

樂 この茶碗の見込みが凄いんです。井戸の中を覗き込むような、深い淵を覗き込むような…そういう深さを持つてゐる。この形が、利休の示唆か、あるいは、長次郎の作意か、それは分かりませんよね。現在の自分は、作家というひとつの性を生まれながらに持つて、形成するということです。長次郎の凄いです。」と言つた時は、長次郎の本質とはまったくかけ離れたものになります。

戸田 反対の意味みたいなところがあるから。樂 そうです。むしろ逆の意味です。ましてや、シンメトリックなんて言つたら、織部の歪んだ茶碗を頭にして、これも当たつていません。だから、先程言つた、その全てを削ぎました、間違つてはいけませんね。「言葉で捉える」ということは、とても大事な事なのです。きつと言葉で捉える努力を、まずしてみると事が大切なのです。それは認識を持つ、形成するということです。長次郎の凄いのは、その先を行つてゐる事なのです。認識

れはやつぱり、利休の示唆が強く働いていると思います。どうしてそう思つたと言つて、待庵という茶室の空間と、とってもよく似ているんです。

戸田 要するに、イメージとして、その空間とムキ栗の茶碗の見込みとが似てゐるという…。これは、方可さんからちょっと説明して下さい。

千 はい。これは去年、樂さんとご一緒に、利休さんに縁のある道具を『待庵』の中に入組み入れて、NHKの『国宝探訪』の撮影の時に、僕が撮らしてもらつた写真です。床に利休の竹の尺八花入れを掛けて、利休が指導した釜師、与次郎の釜。やはり、利休の息が掛かっているであろう信楽の水指、銘は『柴庵』です。利休在判の黒小棗と、茶碗は長次郎の『面影』ですね。そして茶杓はやはり利休作、『天正二年春』の年記があるものです。このように利休の空間を、道具と場によつて再現したものです。

先程のムキ栗の四角い茶碗。角が完全に四角ではなくて、少し丸くなつてゐる独特の奥行きのあるような形ですが、あれが、ちょうどその待庵の壁の隅、少し丸く塗り回してあるような部分と共に通する。床の間の上もそうでしし、炉の上のところなんかも、カーブしているのが腰張の紙の曲がり方なんかで分かつていただけると思います。まさにこういうところで、そのムキ栗と利休の造形感覚みなついたことを結び付けて、もつともらしく説明しようと思ひます。まさにこの二つ、明瞭なことをお話しするのですが、そつとうちに柱がないことによつて、境界がなくなつて、たぶん、樂さんがおつしゃつたこと

は、それによつて広がる空間の無限さ、却つて角に柱がないことによつて、境界がなくなつて、たぶん、樂さんがおつしゃつたこと

は、それによつて広がる空間の無限さ、却つて角に柱がないことによつて、境界がなくなつて、たぶん、樂さんがおつしゃつたこと

樂 要するにねえ、この空間なんです。待庵の茶室に入るということは、たぶん、この見込みの中に自分たちが入るつてことと同じ感覚だらうなど、僕はそう思えるんです。茶碗の中に自分が入るというのは、おかしな話で、あのうつすらお月さんが写っているようすけど、一寸法師になつてもいいんです。見込みの底の茶溜まりはほとんどありませんけれど、あのうつすらお月さんが写っているような、あの見込みの底に、自分の身を置いてみることと同じ感覚だらうなあつて思うんですね。だから、利休さんの世界というのは、やつぱり、もう見事に共通した意識によつて貫かれてゐるなあと思います。

戸田 いろいろお話を伺つて私自身は納得できる部分がありますが、なかなか一般の人にははつきりと理解されることは難しいかも知れませんが、ただしそれは理屈ではなくて、樂さんはそう受け止めると。そのことが大切なんですね。

樂 そうです。そうです。

戸田 皆さんも誤解していただくといかんのですが、何も待庵とムキ栗とが単純に同じだということではないんですね。樂さんが、そういう受け止めをすることが、すごく重要なことなんだということを認識していただけたらなど。

樂 あのう、それは、僕は、物を作つている人間ですから、自分の考え方しかないわけで、そういう意味では、とても傲慢で、こういうふうなことなんですよつて、別にお教えしているわけじやなくて、自分の感じをここで、独り言を喋つてゐるみたいなもので…

戸田 だから、このムキ栗を引っ繰り返すとね、与次郎の釜の形に似ているなんていうことを言われたことがあります、それとはもう全く違う発想なんですね。

樂 それは、とてもナンセンスな話なんで…。

戸田 まあまあ。先程の中世の発掘の人たちが、中世はこうだつたから、利休さんの時代のまだ天正年間の初めの頃は、中世の様式をそのまま引っ張つているから、高台も塗りつぶしていふんですつて。だから、それは中世の流れですというふうに、概要の中でしか物を見られないふうになつてしまつたら、そこからは、何も生まれないだらうし、生み出すことはできなうだらうと。

だから、これをね、先程、戸田さんがおつしゃつたように引っ繰り返すと、与次郎の釜に似ていると。高台のところが、だから、何ていうんですか、口になつて、無一物はね、尻張の釜に似ていると。ああ、似てたら、いつたいそれが何か…。

戸田 それがどうしたんだということになつてしまつ。

樂 僕は、そう…だから、似ているといふことが、もし、本当にそういうことが利休の造形の一つの理想の中にあつたとすれば、そこから、やっぱり、何を感じ取つてくるかといふことが大切なんで、それは、皆さんの感じ方に、それぞれによるわけです。

戸田 だから、結局、話は戻つてしまいますけれども、やっぱり、感じ取つていくことが、一番なされなかつたこと。学びることには、みんなずつとしてきたんですねけれども、感じ取ることを、そして、感激すること、三百人も四百人も来る茶会の中で、それを感じ取るという作業が、非常に難しくなつてしまふ。特にその様な大寄せに行きますとね。それは、知らず知らずのうちに、日々学習するという方向に行つてしまつたんでしようね。感覚をいつの日か必ず取り戻していくかなさやいけないことだと思つんです。

文化の種を蒔く

中條文化振興財団 理事
はしおか文化村 村長
穴吹興産株式会社 執行

リレートーク

水谷正裕



樂 要するにねえ、この空間なんです。待庵 の茶室に入るということは、たぶん、この見込みの中に自分たちが入るつてことと同じ感覚だろうなど、僕はそう思えるんです。茶碗の中に自分が入るというのは、おかしな話で、一寸法師になつてもいいんです。見込みの底の茶溜まりはほとんどありませんけど、あのうつすらお月さんが写っているような、あの見込みの底に、自分の身を置いてみることと同じ感覚だろうなあつて思うんで

戸田 まあまあ。
樂 先程の中世の発掘の人たちが、中世は
こうだつたから、利休さんの時代のまだ天正
年間の初めの頃は、中世の様式をそのまま
引っ張つてゐるから、高台も塗りつぶしてい
るんですつて。だから、それは中世の流れで
すというふうに、概要の中でしか物を見られ
ないふうになつてしまつたら、そこからは、
何も生まれないだろつし、生み出すことはで
きないだろつと。

私は平成元年から劇団四季のファミリーミュージカルの公演を実行委員会形式で主催するという活動をしてきました。子どもたちに「ママの舞台の感

とは男女がレストランなどで食事をしていく、音楽がかかればさつと席を立ち、フロアでダンスを踊るという光景です。

戸田 いろいろお話を伺つて私自身は納得で
きる部分がありますが、なかなか一般の人に
ははつきりと理解されることは難しいかもし
れませんが、ただしそれは理屈ではなくて、

「戸田 それがどうしたんだということになつ
たいそれが何か。」
尻張の釜に似ていると。ああ似てたら、いつ

樂 そうです。そうです。
戸田 皆さんも誤解していただくといかんの
ですが、何も待庵とムキ栗とが単純に同じだ
ということではないんですね。楽さんが、そ
ういう受け止めをすることが、すごく重要な
ことなんだということを認識していただけた

とが、もし、本当にそういうことが利休の造形の一いつの理想の中にはあつたとすれば、そこから、やっぱり、何を感じ取つてくるかといふことが大切なんで、それは、皆さんのがじ方に、それぞれによるわけです。

樂 あのう、それは、僕は、物を作っている人間ですから、自分の考えられないわけで、そういう意味では、とても傲慢で、こういうふうなことなんですよって、別にお教えしているわけじゃなくて、自分の感じをここで、独り言を喋っているみたいなもので…

が、一番なされなかつたこと。学びどること
は、みんなず一つとしてきたんですねけれども、
感じ取ることを、そして、感激すること、三三
百人も四百人も来る茶会の中で、それを感じ
取るという作業が、非常に難しくなつてしま
う。特にその様な大寄せに行きますとね。そ

戸田 だから、このムキ栗を引つ繰り返すと
ね、与次郎の釜の形に似ているなんていうこ
とを言われたことがあります、それとはもう
全く違う発想なんですね。

は、知らず知らずのうちに、只々学習する
という方向に行つてしまつたんでしようね。
やつぱり只学習するだけでなく、感じ取る
感覚をいつの日か必ず取り戻していかなさや
いけないことだと思つんです。

この実行委員活動は、舞台芸術を鑑賞によって、子どもたちの心に文化の種を蒼生させるという作業ですが、同時に未来の観客を開拓することでもあります。

に「食事のあとチョッとダンスを」というような、要はタシナミ程度を習得したいという人向けには教えていなかつたようです。私の通つたダンス教室が特別ではなく、日本のお稽古事は

舞台を作る人、それを鑑賞する人すなはち観客」の三拍子が揃ってそろつてはじめて成り立つものです。忘れてはいけないのですが、芸術・文化のプレイヤーだけが「文化している」ので

和洋を問わずお稽古事を主宰する皆さんにお願いがあります。プレイヤーを育てることを目的にするのはもちろんではあります、但し、「チヨツと興味を

なく、鑑賞者も「文化している」のです。歐米の映画を観ていて、あんなことがさりげなくできれば良いなと思うシーンをよく目にします。そのシーン

持った人」、「好きになるかもという人」たちが気軽に体験できるような場もどんどん提供していただければと思います。

県立東山魁夷せとうち美術館 開館準備始まる

館長 菅原良弘

平成十三年度に、東山魁夷画伯夫人、すみ様からご寄贈頂いた作品を含め、画伯の作品を収蔵、展示するためには坂出の瀬戸大橋記念公園に建設されたいた同美術館が竣工し、このたび無事県に引き渡されました。来春の開館準備に多忙な新館長から新しい美術館について、その概要を紹介いただきました。

過日、一年ぶりに東山魁夷夫人すみ様にお目にかかりました。第二回東山魁夷記念日経日本画大賞の受賞式に招かれてのことです。東山魁夷せとうち美術館館長の辞令をもらつたばかり、ほやほや館長の身でご挨拶させていただきましたが、奥様は相変わらず凛としたお姿で、多くの列席者と歓談しておられました。

さて、「香川県立東山魁夷せとうち美術館」は、平成十六年十一月一日に美術館として正式にスタートし、来春の開館に向けて私を含め三人の体制で準備を開始しました。美術館の場所は、瀬戸大橋記念公園の一角で、万葉の島、沙弥にあります。マリンライナーで岡山に向う途中、陸地を離れる直前に左手をご覧いただければ、建物が目に留まると思います。

海岸線に沿つて沙弥島にくつつくように、樹木に囲まれ周囲の景色に溶け込むように静かな佇まいをした四角い建物が、来春の開館を待つ香川県立東山魁夷せとうち美術館です。設計者は、丸亀猪熊弦一郎現代美術館や、ニューヨーク近代美術館の拡張計画などを手がけた谷口吉生氏です。

美術館の建設場所をこの地に決めたのは、

この場所が櫃石島の見える所だったからです。東山画伯自身は横浜生まれの神戸育ちですが、お祖父さんが櫃石島の出身です。香川がご先祖の地ということもあって、画伯が亡くなられた後、すみ夫人から二百四十点余に及ぶリトグラフなどの作品が寄贈されました。寄贈されたものと、これまでに県が収集している作品を多くの方々にご鑑賞いただくために、ご先祖ゆかりの地である櫃石島に近いこの場所に建設したものです。

美術館の開館は来春四月中旬頃を予定しています。展示計画は、季節ごとにテーマを作り、来館者にご満足いただけるよう工夫を凝らして展示したいと考えております。また、収蔵品ばかりではなく、普段は香川県で見る機会の少ない代表作についても、東京国立近代美術館など所有先から拝借して、魅力ある特別展も開催することにしています。

ところで、県が収集した作品の中には、

画伯にとって節目となつた作品があります。一つは平成十年の作品で、絶筆ではありませんが最後の日展出品作となつた「月光」です。日展の作品といえば百五十号の大作

面すべてをまるで水墨画のように青の濃淡で描き、淡い月の光の中で見える自然の神秘、まるで遠いマルヘンの世界を見るような作品です。画伯は、日展にこの作品を出品するに当たつて「昼間の雪も收まつて、色とりどりのスキーコ客の姿も無い。夜の帳とともに静寂が訪れる。どこからともなく差し込む月の光に誘われて、精靈の踊りが初りそな澄んだ夜である。」という言葉を添えたといいます。

もう一点は、昭和三十一年に日展出品された「松庭」という題名の変形百二十号の大作です。松を中心とした庭木が、画面いっぱいにモザイク風に力強く描かれ、一



財団行事予定

(十二月～三月上旬)

十二月

◆懐石講座「クリスマス茶会」三友居
十二月七日(火)午前十一時・午後三時

◆和菓子講座 高橋初乃先生
十二月十日(金)午前十時～十二時

◆「月に一度の喫茶室」

◆「南方録を読み解く」伏見章先生
十二月二十一日(火)毎月第三火曜日
十二月十四日(火)午後二時三十分

一月

◆晴友会新年会

昨年晴友会の方々と新年の釜をかけて楽しみましたが、又来年もの声が多く懇親会をかねて新年会を行いたいと思います。多くの会員の皆様のご出席をお待ち申しております。

◆記

とき 平成十七年一月六日(木)

処 晴松亭・美藻庵(当財团茶室)
内容 濃茶席 薄茶席 点心席
ゲーム福引等々

会費

晴友会会員 三千五百円
会員外 五千円

申込

本年十二月十日迄に財団にお申込下さい。人数により席時間等

決まり詳細をご連絡いたします。
※お手伝い下さる方大歓迎、
一緒に申込下さい。

◆和菓子講座

高橋初乃先生
一月十四日(金)午前十時～十二時

◆「月に一度の喫茶室」一月十八日(火)

宮尾賀瀬寛氏が作品を展示して下さることになりました。

◆「南方録を読み解く」伏見章先生

Oh! 茶Gai!

その②



「お抹茶つてホントに小さい頃から飲んでました…と言っより飲まされてたって言うのが正しいのかな?」と話してくれたのは大阪の専門学校に通つている香川日向子さん。

「おばあちゃんがお正月や法事の時、それ以外にも美味しそうな和菓子をいただくと決まって抹茶を点てくれました」そんな彼女が自分からお茶を習い始めたのは大阪に行ってからだと。正式なお作法を習つていなかつた彼女が、学祭のお茶会に出てその奥深さ、面白さをもっと知りたいと思って習い始めたそうです。

今は喫茶店でアルバイトをしている彼女にとって、お茶を習い始めて身につけた「おもてなしの心」はとても役立つているそうです。「でも、一番の楽しみは美味しいお菓子が食べられることかな?」と笑つていました。

既に日展の審査員を務め芸術院賞も受賞して、画壇にその地位を固めつつあつた画伯の新しい挑戦は美術界に衝撃を与えたようだ…」「新しい東山芸術の起点になる…」と高く評価するものも半分くらいあります。

既に日展の審査員を務め芸術院賞も受賞したこととすみ夫人にお知らせしたところ、ご丁寧なお手紙をいただきました。「終戦後、画伯が召集解除になつて東京に戻つたものの、家が全焼して住むところが無く、

仕方なく千葉の知人の家に七年間下宿生活をしていたとき、その家の母屋の庭を描いたのがこの絵であること。このころの画伯

は、戦争をはさんで両親と二人の兄弟をなくし、失意の底にあつたが、たくましい松の生命力あふれる姿に勇気付けられたこと。展覧会の終わつたあと望まれて手放したものの、その後持ち主が転々として所在が分からなかつたこと。それが先祖ゆかりの地に安住の場所を得て、これほど嬉しいことはない」という感謝の言葉がつづられていました。

「自然の中につつて、心静かに感じるも

のを素直に表現したい…」日本の美しい魂を後生に伝え、人々に心の安らぎを与え続けた画伯の九十年の生涯を、静謐な絵の世界を通して多くの方々にご堪能いただきました。

「シルクロード」に憧れた中国の旅は、北京から西安まで広大な地理と歴史に圧倒され続けた第一回、万里の長城を越えた敦煌の町で風の音に耳をすませた二回目を経て、こまぎれながら、やつと、タクラマカン砂漠の入口にたどり着きました。

高層ビルの建ち並ぶウルムチから、天山山脈の南側に点在するオアシス都市をめぐる道中は、清澄な山懷に抱かれた青天と、砂塵にけむる太陽を交互に繰り返して進みます。自然条件や人為的な仕業で破壊された遺跡の前で、ガイドは古い歴史を語るのですが、どこも決して過去の町ではなく、ウイグル民族が個性豊かに暮らす現代の生活空間であることを頼もしく感じました。

無音の砂漠を抜け出ると、賑やかな子供たちの声、流れる河の水音、行き交う車に交じったロバの鈴音。そして、にわかに始まつた宴の杯の響き。西域の地に持込んだ望郷の酒をお相伴して、乾杯。乾杯。



喫茶居(二十二)

「砂漠の望郷酒」

「シルクロード」に憧れた中国の旅は、北京から西安

まで広大な地理と歴史に圧倒され続けた第一回、万里の長城を越えた敦煌の町で風の音に耳をすませた二回目を

経て、こまぎれながら、やつと、タ克拉マカン砂漠の入

口にたどり着きました。

高層ビルの建ち並ぶウルムチから、天山山脈の南側に

点在するオアシス都市をめぐる道中は、清澄な山懷に抱

かれた青天と、砂塵にけむる太陽を交互に繰り返して進

みます。自然条件や人為的な仕業で破壊された遺跡の前

で、ガイドは古い歴史を語るのですが、どこも決して過

去の町ではなく、ウイグル民族が個性豊かに暮らす現代

の生活空間であることを頼もしく感じました。

無音の砂漠を抜け出ると、賑やかな子供たちの声、流れる河の水音、行き交う車に交

じつたロバの鈴音。そして、にわかに始まつた宴の杯の響き。西域の地に持込んだ望郷の酒をお相伴して、乾杯。乾杯。

般にイメージされる画伯の作風とは少し違

うものです。昭和三十以前後、画伯はとて

も大胆に新しいものに挑戦していますが、これもその一つです。この作品が発表され

たとき、驚いた多くの美術評論家が論評を残しています。いわく「およそ東山らしく

ない…」「破綻している…」と厳しい論評が半分くらいある一方、「なかなか大胆な試みだ…」「新しい東山芸術の起点になる…」

と高く評価するものも半分くらいあります。

既に日展の審査員を務め芸術院賞も受賞

して、画壇にその地位を固めつつあつた画

伯の新しい挑戦は美術界に衝撃を与えたよ

うです。縁あつて、この作品を県が収集し

たことをすみ夫人にお知らせしたところ、

ご丁寧なお手紙をいただきました。「終戦

後、画伯が召集解除になつて東京に戻つた

ものの、家が全焼して住むところが無く、

仕方なく千葉の知人の家に七年間下宿生活

をしていたとき、その家の母屋の庭を描い

たのがこの絵であること。このころの画伯

は、戦争をはさんで両親と二人の兄弟をな

くし、失意の底にあつたが、たくましい松

の生命力あふれる姿に勇気付けられたこと。

展覧会の終わつたあと望まれて手放したも

の、その後持ち主が転々として所在が分

からなかつたこと。それが先祖ゆかりの地に安住の場所を得て、これほど嬉しいことはない」という感謝の言葉がつづられていました。

◆和菓子講座 高橋初乃先生

二月十一日(金)午前十一時

◆「月に一度の喫茶室」二月十五日(火)

火の山窯 飯橋秀岳(本名秀明)

綾南町より作品を展示して下さいます。

◆二月月釜のご案内

本年は財団茶の湯委員が二月に釜を

残しています。いわく「およそ東山らしく

ない…」「破綻している…」と厳しい論評が

半分くらいある一方、「なかなか大胆な試みだ…」「新しい東山芸術の起点になる…」

と高く評価するものも半分くらいあります。

既に日展の審査員を務め芸術院賞も受賞

して、画壇にその地位を固めつつあつた画

伯の新しい挑戦は美術界に衝撃を与えたよ

うです。縁あつて、この作品を県が収集し

たことをすみ夫人にお知らせしたところ、

ご丁寧なお手紙をいただきました。「終戦

後、画伯が召集解除になつて東京に戻つた

ものの、家が全焼して住むところが無く、

仕方なく千葉の知人の家に七年間下宿生活

をしていたとき、その家の母屋の庭を描い

たのがこの絵であること。このころの画伯

は、戦争をはさんで両親と二人の兄弟をな

くし、失意の底にあつたが、たくましい松

の生命力あふれる姿に勇気付けられたこと。

展覧会の終わつたあと望まれて手放したも

の、その後持ち主が転々として所在が分

からなかつたこと。それが先祖ゆかりの地に安住の場所を得て、これほど嬉しいことはない」という感謝の言葉がつづられていました。

◆「南方録を読み解く」伏見章先生

二月二十二日(火)午後一時三十分

※「喫茶室」の昼食(千円)のご予約は直前の日曜日までにお願いします。

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要です。お申し込み、お問合せは、当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一一二
(087)826・3355

茶華道ガイド

一茶庵流香川県支部 ☎(087)861-4369

1/23 第51回日本伝統工芸展協賛茶会
席主：長崎玉道
香川県文化会館
500円 9:00～15:30

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

1/9 第51回日本伝統工芸展協賛茶会
香川県文化会館
500円 9:00～15:30

2/13 表千家四季茶会 席主：黒島宗篤
本覚寺別院 500円 9:00～15:00

琴平月金茶道会 ☎(0877)58-9551

12/4・5 歳末助け合いチャリティー茶会
(静風流煎茶・金丸光洋先生)
町総合センター 200円
(4日) 9:00～16:00
(5日) 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

12/5 丸亀分会月金 席主：時岡宗芳
生涯学習センター 500円 10:00～15:00
12/12 善琴分会月金 席主：河内宗富
善通寺樟蔭軒 500円 10:00～15:00
1/16 丸亀分会月金 席主：河野宗靜
生涯学習センター 500円 10:00～15:00
1/23 善琴分会月金 席主：安井宗善
善通寺樟蔭軒 500円 10:00～15:00
1/23 三野町文化祭 席主：加藤宗良
三野はつらつセンター 500円 10:00～15:00
2/27 坂出分会月金 席主：平尾宗可
勤労福祉センター 500円 9:30～14:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

12/6 淡交会高松支部青年部年末チャリティー茶会
天神会館 800円 10:00～16:00
2/6 淡交会高松支部月金
天神会館 600円 9:00～16:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087)898-6569

1/16 第51回日本伝統工芸展協賛茶会
席主：高木宗美 香川県文化会館
500円 9:00～15:30

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

12/5 香川官休会月金 席主：藤本淳子
本覚寺 500円 9:00～15:00
1/9 香川官休会月金 席主：松原律子
本覚寺 500円 9:00～15:00
2/6 香川官休会月金 席主：西村純子
本覚寺 500円 9:00～15:00
武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

2/6 節分茶会 栗林公園内花園亭
3000円 9:00～16:00

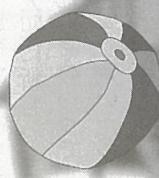
次の期間(3月1日から5月末日)の情報を2月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。

2004劇団プチミュージカル公演

ミュージカルコメディー

紙風船の歌



1st stage 12月26日(日) (グランドホール)

2nd stage 2月13日(日) 三木町文化交流プラザ

17:30開場 18:00開演

前売り1800円・ペア3000円・当日2000円

発売所 大阪屋郡家店・タマル本店・ローソン

お問い合わせは(劇団事務局)TEL0879-42-3567

<http://www.tiki.ne.jp/~petitmusical/>



十一月三日に行われた熊倉功夫先生の講演会(茶の湯をさらに楽しむ会)に合せて、群馬県中之条町に全国で唯一残るという国指定重要無形民俗文化財の「上州白久保のお茶講」を財団の立札席で体験していただきました。これは利休以前の茶で、主に武士を中心とした流行った闘茶の方法を今に残す貴重な民俗行事です。



しました。体験チームで現地を訪問して習い、記録用の連盟帳やさらさら紙なども頂き、調合したお茶を直前に送って頂きました。現地にはもちろん及びませんがかなり近い雰囲気になりましたのはと思しながら、懲りずに次の機会を探つてゐるところです。

抹茶の場合、新茶の季節は五月ではなく、柚子が色づく炉開きの頃となります。密閉した茶壺の口を切つて今年の新茶を取り出し、茶臼で挽きます。挽きたての新茶の香りを楽しんで頂くというまたとない月金の茶席が楽茶俱樂部の皆様によつて実現致しました。

茶人の正月と言われるようにお雑煮から始まるお席には茶臼の音が微かに響いています。仲立ちの後の濃茶席は少し緊張して静寂です。長くお茶をしていても滅多に体験する機会はありません。

何時に無く着物での参加者が多かつたのも印象的でした。



ワークショップ

お茶講体験

晴

松

亭

あ

れ

十一月月金

『口切り』

を飲み、後に七服飲んでその種類を当てるゲームです。

賞品は飴やお菓子ですが、賭け事の雰囲気がかなり残っているのか参加の皆さ

ておりますが、お茶の銘を当てるのはありません。

お茶講の場合は甘茶と洪茶(煎茶)とチンピの配合を

いろいろと変えたお茶を四種類作り、まず見本のお茶

を存知の方は、七式の茶かぶさとやり方が似

ておりますが、お茶の銘を似たるわけではありません。

お茶講の場合は甘茶と洪茶(煎茶)とチンピの配合を

いろいろと変えたお茶を四種類作り、まず見本のお茶

を存知の方は、七式の茶かぶさとやり方が似たるわけではありません。

</

イベントガイド

香川県県民ホール ☎ (087)823-3131

〈グランドホール〉

12/5 高松交響楽団 第97回定期演奏会 14:00~●

12/12 陸上自衛隊第2混成団音楽隊
第24回定期演奏会 14:00~★

12/26 劇団ブチミュージカル公演
ミュージカルコメディー「紙風船の歌」
18:00~●

〈アクトホール〉

12/10 チェコフィルハーモニー室内管弦楽団
演奏会 19:00~●

12/12 藍川由美 古賀メロディーを歌う 14:00~●

12/23 ヴァエリ第13回コンサート 14:00~●

12/26 ヴォラーレピアノコンサート 12:30~■
2/24 野村万作・萬斎狂言会
14:00~・18:30~●

香川県文化会館(休館日月曜) ☎ (087)831-1806

1/6~23 第51回日本伝統工芸展 9:00~●

2/5~20 讲岐のうるし工芸 9:00~●

香川県歴史博物館 ☎ (087)822-0002

かがわ今昔～香川の歴史と文化～

弘法大師空海の生涯と事績

10/30~12/12 まんでがん！むかしのどうぐ

11/2~2/13 写真で見る香川の近代建築Ⅱ

11/4~12/19 鎧う～甲冑の世界～

12/16~2/6 発掘へんろ

～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～

12/16~2/6 供える・飾る～香川の年中行事～

12/23~2/20 鳥、とりどり

1/22~2/20 讲岐のうるし工芸

～象谷から始まる先人たちの足跡～

2/10~4/3 王たちの墓～香川の古墳～

2/15~3/27 満濃池復興にかける

～和泉虎太郎の奔走～

2/25~4/10 松平家名品展Ⅱ

高松市教育委員会文化振興課 ☎ (087)839-2636

12/17 デリバリーアーツ事業

「瀬戸フィル音楽会」はなぞの園 14:00~■

高松市図書館 ☎ (087) 861-4501

12/24 クリスマス会 14:00~■

1/10 かるた会 10:00~■

高松市歴史資料館 ☎ (087) 861-4520

〈サンクリスタル高松4階特別展示室〉

10/16~12/5 第37回特別展

「仏生山・多肥地区の文化財」展 9:00~●

1/29~3/13 第38回特別展

「講岐の文化人・後藤漆谷」展(仮称) 9:00~●

サンポートホール高松 ☎ (087)825-5010

〈大ホール〉

12/5 グリークラブ香川 第12回定期演奏会
14:00~●

12/11 2004年高松市民クリスマス 19:00~●

12/12 香川県合唱祭 in 高松 12:30~■

12/15 BEGINコンサート 18:30~●

12/16 アフラック日本創業30周年記念

クリスマスチャリティーコンサート2004
18:30~(抽選による招待)

12/17 藤木直人 コンサート 18:30~●

12/18 サンポートホール高松 X'mas Concert 岡本知高ソプラニスタ・リサイタル2004 15:00~●

12/23 スタジオトゥルー公演 KID'SWORLD Vol.10 11:30~●

12/23 スタジオトゥルー第21回公演 ザ・ダンサー2004 17:30~●

2/6 宝くじふるさとワクワクシアター in 高松 14:00~●

2/16 美輪明宏講演会 15:00~●

〈第1小ホール〉 12/5 秦瞿代 琴リサイタルコンサート 13:00~●

12/6 谷山浩子 コンサート 19:00~●

12/27 Musicista Feliceコンサート 13:30~■

〈第2小ホール〉 12/3~5 8RO ART&AD EXHIBITION 11:00~(初日12:00)■

12/12 香川フルート友の会発表会 13:00~■

高松天満屋 ☎ (087)812-7750

12/7~19 高円宮憲仁親王殿下を偲んで
～高円宮コレクション・高松～ 10:00~●

12/20~30 韓流展(韓国のスクリーンに登場した俳優等の写真パネル展) 10:00~ 未定

ギャラリーen ☎ (087)851-3711

11/22~12/4 篠田桃紅展 10:00~■

3/3~9 長野裕 釜展(仮称) 10:00~■

ギャラリーアコステージュ ☎ (087)841-8200

12/5~25 ランプ展
(富者の万灯より貧者の一灯) 10:00~●

1/1~2/25 新春企画 源平今昔展 10:00~■

四季ギャラリー ☎ (087)822-9010

12/1~28 ちぎり絵展 7:30~■

1/4~31 清水純一絵画教室の絵画展 7:30~■

ヨンデンフラザ高松 ☎ (087)851-3863

12/14~19 「クリスマス・お正月を題材にした
生け花作品展示」
代表者:川口純子TEL087-868-1199

12/21~26 チャーチル会高松展「油絵展示」
代表者:秦泉寺昇TEL087-867-5744

牟礼町石の民俗資料館 ☎ (087)845-8484

12/4~16 文化協会展(第5期師走展) 9:00~■
12/18 クリスマスコンサート 18:30~●

1/1~23 迎春エントランスロビー展 9:00~■

2/19~3/3 文化協会展(第6期如月展) 9:00~■

町立塩江美術館 ☎ (087)893-1800

11/30~12/19 江戸健展 9:00~●

2/1~20 香川が生んだ女流画家の先駆者
藤川栄子展 9:00~●

さぬき市志度音楽ホール ☎ (087)894-1000

2/6 M.ノステイツ弦楽四重奏団演奏会 14:00~●

東かがわ市教育委員会生涯学習課 ☎ (0879)26-1238

12/5 市音楽舞踊発表会 中央公民館
9:30(予定)~■

12/11 東かがわ市指定史跡「引田城跡」
発掘調査現地説明会
引田城跡 10:00~■

とらまる公園事務所 ☎ (0879)25-0400

週末人形劇公演 間合せ とらまる
ペペトラン TEL0879-25-0055

坂出市民ホール ☎ (0877)45-1505

1/10 坂出市成人式(ホール) 11:00~■

1/29~31 花き展示品評会(ホワイエ) 9:00~■

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877) 24-7755

11/13~ ジャバニーズ・モダン
1/16 一剣持勇とその世界ー 10:00~●
1/22~3/6 猪熊弦一郎展 人物像にみる表現
10:00~●

丸亀市民会館 ☎ (0877) 23-4141

12/1~3 演劇鑑賞教室
「小象物語」トンキーよ永遠に
10:00~・13:30~●

12/5 第8回ふれあいコンサート 12:00~■

12/12 丸亀市少年少女合唱団
第3回定期コンサート 14:00~●

1/22 徳永英明コンサート 18:30~●

1/30 第3回まるがめクラシックギャラリー
コンサート 14:00~●

2/20 讲岐太鼓のつどい 13:00~★

丸亀市文化協会 ☎ (0877)24-8822

2/2~13 西讃文化協会美術展
(善通寺市美術館) 10:00~■

2/12~20 ~生活の詩～かまぼこ板絵展
(丸亀市立資料館) 9:30~■

あーとらんど ギャラリー ☎ (0877)24-0927

11/27~12/19 野坂徹夫展 11:00~■

1/8~30 香川・具像・今展 11:00~■

2/6~13 臥牛窯展 11:00~■

美翠Bisui ☎ (0877)23-6350

1/22 婆沙羅と聞香のつどい
聞香「まるがめ京極と香り」
(丸亀市民会館)
10:30~・13:30~●

普通寺市教育委員会 ☎ (0877)63-6328

2/13 優秀映画鑑賞事業
(善通寺市民会館) 終日■

総合会館アイレックス ☎ (0877)86-6800

12/5 濑戸フィルハーモニー交響楽団
第12回定期演奏会クリスマスコンサート
14:00~●

1/22 劇団四季ミュージカル
「はだかの王様」 18:00~●
1/30 第8回あやうた音楽祭 12:30~■

多度津町民会館 ☎ (0877)33-3330

12/19 第2回たどつ音楽のつどい
(町民会館文化事業) 9:30~・13:00~■

仲南町教育委員会 ☎ (0877)77-2882

〈仲南町民文化ホール〉

2/13 第7回森のコンサート
オープニング「楽しい音楽会」 14:00~■
2/19~20 第7回森のコンサート
「オーケストラの演奏会」
19日18:30~・20日13:00~●

あなたが創る郷土の文化

去る十一月七日(日) 香川県歴史博物館・地下講堂於いて、本年度第十二回中條文化振興財団・財団賞の授賞式が晴れやかに行われた。これは九月に開催された当財団の第二回理事会および評議員会での決定に基づいて実施されたもので、本年度は左記の両名が受賞者として選出された。当日は大原謙一郎氏(大原美術館理事長)を講師に迎えての財団主催の講演会に先立ち、副理事長中條利祐より、それぞれ賞状と奨励金二十万円が贈呈された。

■伊藤健治氏(山本町)

評議員・川人洋造氏ご推薦

進行性筋ジストロフィーという難病との共生体験から、「命の可能性、それをいかに生きるか」をテーマに独自の

執筆活動・講演活動・音楽活動を通し、

青少年教育関係者、病院関係者など幅広い層に對して生きる意義と感動を与えていた。現在はホスピスワーカーの活動の傍ら、「四国新聞」客員論説委員として活躍中。

■「岡田踊り保存会」

(代表者 岩崎勲氏)

綾歌町教育委員会教育長ご推薦

毎年の旱魃の悩まされた岡田地区では、寛永三年の大旱魃を機に大庄屋・岡田久治郎が私財を投じて西島八兵衛と協力し、寛永十年に満濃町の亀越池を完成させ、水利を安定させました。その時の村人たちが喜び踊り出したのが「岡田おどり」の起源で、その後土器川水系の各地に広まつたそうです。保存会では丸龜市との合併を控え、後継者の育成に力を入れたいとお話し下さいました。

平成十七年度助成金 ただ今応募受付中

財団の助成金は、香川県の芸術文化の振興発展に役立つと認められ、かつ経済的に助成を必要としている団体を対象にしています。特にこれまで実績のない団体やイベントの為のプロジェクト的な団体でも応募できますので、夢のプランを持つている方は具体的にして下さい。

内容によつては、五年間連続して助成を受けることもできますので、どしどしご応募下さい。

●事業(イベント等)の実施期間 平成十七年四月一日～ 同十八年三月末日まで

●応募の方法 財団所定の助成金交付申請書により提出して下さい。

〆切は、平成十七年一月末日。
なお、二月下旬頃に財団の選考審議委員会に於いて各々プレゼンテーションして頂きます。

範囲は限られますので、物足りなさをお持ちの方々もおられるかもわかりませんが、少しづつでも、県下のいろいろな人物・事柄を取り上げ又、掘り起こし「香川発の文化」を提唱して行きたいと願っています。

【声・情報お寄せください】

茶華道・芸能・音楽・美術・工芸・その他。いずれかのジャンルに該当するもの。

●助成金 三団体
(一件三十万円まで)

編集後記

二〇〇四年、最初の編集会議で、今は一年を通して方針を立てて取り組んでみようということに決まりました。

表紙については、本誌発行の時期に合わせて、サンポートホール開館、レオマワールドの再開、金刀比羅宮の遷座祭、東山魁夷美術館建設等に的を

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二
(財)中條文化振興財団編集部
TEL(087)826-3355
FAX(087)826-2212